

# 入賞作品紹介

②

## 中学生の部親子賞 最優秀賞

読む知る学が E! 新聞

### 母のピックアップ

会津若松市 北会津中2年 佐藤 由菜さん

私の家族は新聞が好きで、「新聞は読んでよ」とよく言います。私も読んだ方が良くと思うのですが、なかなか読む気になれません。読めない字や分からない単語があり、「新聞は難しい」という苦手意識が生まれてしまっからです。

そんな私に新聞を読んでもらいたいと母が始めたのが、いい記事をピックアップ

クアッップすることです。母が読んで面白と思う記事やためになると思っ た記事を選び、食卓の上で置きます。それを、朝食の時に私が読むのです。母がピックアップする記事は、いろいろな人の考え方や生き方、豆知識などです。それらは読みやすく、新聞が苦手な私でも読み続けることができました。

その中の一つに、社会でのある出来事について、複数の意見が書かれている記事がありました。それを読むと、この人の意見に賛成だな、でも、あの人の気持ちも分かるな...と、一人でいろいろ考えてしまいます。紙面の上で討論会が開かれていたようで、とても面白かったです。

### 人生の羅針盤

母 佐藤 陽子さん

私にとって新聞は、進むべき道を示してくれる羅針盤のような存在です。

新聞には、政治、経済、スポーツに加え、コラムや投書など様々な記事が

あります。それらには、著名人から市井の人まで、あらゆる立場からの幅広い意見が掲載されています。自分とは異なる考えに触れたり、思いもつかなかった発想を知ることができたりと、私の視野を広げてくれます。愛読書との出会いも、座右の銘との出会いも、きっかけは新聞です。新聞には、心の栄養となるヒントがたっぷり詰まっています。

何故こんなにも新聞が人生を豊かにしてくれるのか、私なりに考えてみました。たどり着いた答えは「留まる」ことであるから。心に響いた記事は、時間をかけてじっくり読んだり、折に触れ読み返したり、切り取って目につく所に貼ったりと、自分流の方法で繰り返し心に届けることができます。紙に文字が載っ

ている、このアナログさが「留まる」ための要素。テレビは聞き流れてしまい、ネットは読み流れてしまいます。デジタルな情報は手軽でスピーディーですが、特徴を理解して上手に使い分けたいです。

我が子にも、新聞を読むことが習慣になって欲しいと思っています。私が、親として子に伝えられることは限られており、場合によっては偏っているかもしれません。なので、人生の羅針盤として新聞を活用し、これからの人生をより豊かに進んでいって欲しいです。